



KQG2 series／製品個別注意事項

ご使用の前に必ずお読みください。

安全上のご注意につきましてはP.11、管継手&チューブ／共通注意事項につきましてはP.14～18をご確認ください。

選定

△注意

- ①サージ圧は最高使用圧力以下に抑えてご使用ください。サージ圧が最高使用圧力を超えるとチューブ抜けの発生や、継手、チューブの破損の原因となります。
- ②温度変化が激しい流体および環境で、フッ素樹脂チューブを使用される場合はチューブ変形により、気密漏れやチューブ抜けの原因となるのでインナスリーブをご使用ください。
- ③KQG2シリーズの発塵量は使用条件、使用環境により異なりますので、機械、装置への影響を懸念される場合は、実機による発塵量をご確認の上ご使用ください。

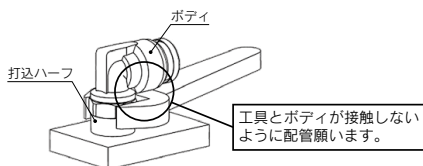
KQG2シリーズは、内圧の変化により構成部品が揺動し、それにより発塵する可能性があります。またエルボユニオン、両口チーズユニオン、ロングエルボユニオンにおいては締結後の位置決め回転により発塵する可能性があります。

取付

△注意

- ①配管施工時、締付工具を打込ハーフの六角面に対して、水平に迴して頂き、ボディにモーメントなどの負荷がかからないようお願いいたします。

工具とボディが接触した場合、打込ハーフ抜けの原因となります。



- ②エルボ、チーズ、ユニオンワイ、異径チーズ、異径ユニオンワイは、取付穴にて位置を固定してご使用ください。固定して使用しないと、製品の自重により引っ張りやモーメント荷重などが発生し漏れや破損の原因となります。
- ③エルボユニオン、両口チーズユニオン、ロングエルボユニオンは締結後、位置決め程度の回転は可能ですが、回転しながらの使用はできません。磨耗による使用流体への金属粉の混入や、継手破損の原因となります。
- ④接続チューブが揺動、もしくは回転するような使用はしないでください。

継手破損の原因となります。特に打込ハーフ付製品の場合は、打込ハーフ抜けの原因となります。

使用環境

△警告

- ①継手を設置する環境について、食品ゾーンでの使用は行わないでください。

- ・設置不可
食品ゾーン：食品が継手部品に直接接し、その食品が商品として扱われる環境
- ・設置可
スプラッシュゾーン：食品が継手部品に直接接する場合もあるが、接触した食品は商品として使用されない環境
- 非食品ゾーン：食品とは接しない環境

チューブの着脱操作

△注意

- ①チューブの装着
1) KQG2シリーズはグリスを使用していません。そのため、チューブ装着時の挿入力が大きくなります。特に、ポリウレタンチューブは軟質のため挿入時、チューブが折れてしまう場合があります。チューブの根本を持ち、突き当たり感がでるまで、ゆっくりと確実に差し込んでください。チューブ挿入長さの目安は、外形寸法図のM寸法を参考にしてください。
- ②チューブの離脱
1) 高温で使用したチューブや長期間使用したチューブは、外径が拡大し、ワンタッチ管継手に再装着できなくなる場合があります。装着できないチューブは廃棄し、新しいチューブに交換してください。

ねじ管継手の適正締付トルク

△注意

- ①ねじ込みの際は下表の適正締付トルクで締めてください。目安として手締め後、工具で2、3回転に相当します。適正トルク以上で締めた場合、継手破損の原因となります。特に打込ハーフ付製品の場合は、打込ハーフ抜けの原因となります。

接続ねじサイズ	適正締付トルク N・m
NPT、R1/8	3～5
NPT、R1/4	8～12
NPT、R3/8	15～20
NPT、R1/2	20～25

ステンレスについて

自然の世界では、一部を除いて金属は酸化物や硫化物などの鉱石として存在し、また発見されます。このことは、金属は金属単体で存在するよりも酸化物や硫化物で存在していた方が安定であることを示しています。したがって、金属材料は自然環境の中で化学的に酸化(金属がイオンとなり溶け出す)、言い換えると腐食することを意味します。環境の酸性化が高くなると金属の腐食が起こりやすくなるのは一般的ですが、ある種の金属は酸性化がある程度以上高くなると、腐食が起こらなくなります。このようなときその金属は不動態になったといえます。ステンレスは表面に生成した薄い不動態皮膜によって耐腐食性を得ています。しかし、耐腐食性があるとはいっても完璧なものではなく、この耐腐食性を改善するために多種類のステンレスが開発されています。